

鈴鹿8耐優勝、BSBで活躍の 清成龍一選手も絶賛!!

PHOTO/HONDA TEXT/Y.MATSUDA

「僕、ブーツとグローブにはすごくウルサイんです。納得できるモノじゃないと使えません。ブーツであれば、足の動かしやすさだけでなくフットレストやペダルとの接触面も大事です。レースでは6連をフルに使って頻繁にシフトチェンジし、リヤブレーキも細かく調整します。踏ん張ったり、踏み変えたりもあるし、いろんな動きをしますから。」

GP-1は見ためにはゴツく、ちょ

っと触っただけでは動きが悪そうに感じるかもしれませんが、でも、実際に履くと素晴らしいんですよ！よく動いてくれて、その動きがスムーズ。“問題ない”というレベルではなく、とても動かしやすいんです。

僕はふくらはぎをしっかり締めたいタイプなのでラチェット式のベルトがフィットするのがうれしいのですが、全体のフィット感もスゴいんです。特にソールが気に入っていて、フットレスト

を踏んでいる感触、ペダルが足のどこに当たっているかもよく伝わってきます。BSBと8耐ではステップの作りが違いますが、それに関係なく雨でもグリップしてくれて、しっかりと踏むことができます。

プロテクションについては試したくありませんが……この前ハイサイドで飛んだときは全然平気でした」



今年の8耐はTSRから参戦。秋吉耕佑/伊藤真一の両選手を支える第3ライダーの立場ながら、勝敗を決する速さを発揮した

「よく動いてくれますし
感触もよく伝わってきます。
ウルサイ僕でも大満足!」

清成龍一選手

きよなり・りゅういち 1982年生まれ、埼玉県出身の28歳。'02年に全日本ST600チャンピオンを獲得。'03年のMotoGPスポット参戦を経て、'04年からBSB（英国スーパーバイク選手権）にフル参戦を開始。'06～'07年、'10年とチャンピオンを3回獲得（'08～'09年はSBKにフル参戦）。鈴鹿8耐では'05年、'08年、'10～'11年と4度も優勝を果たしている



レースでは極めて大胆なライディングを披露する清成選手だが、実はとても繊細。セッティングが1mm違うだけで戸惑う。ライディングギアにとことこだわるのは当然だ



カラーバリエーションは 4種類と豊富

操作性を確保しつつ転倒時のプロテクションを高め、踵にも衝撃吸収材を内蔵。トゥスライダーはマグネシウム製で、ボルトが路面に設置しにくい形状となり、交換が容易に。また、ふくらはぎの内側にはグリップガードを装備し、ホールド性と耐熱効果をアップ



普段は見えないソールにも妥協しない。柔らかく、グリップ力に優れるため、大きく足を動かすような動きも思い通りにできる。雨の日も街中で使ってみただけで安心感が高かった



インソールも付属。しっかり踏ん張ることができ、マシンの動きを感じやすい。踵にも衝撃吸収材が入る



カーボンプリントされたバックルはラチェット式で、簡単にふくらはぎのテンションを調整できる。緩めるのも、締めるのも一瞬だ。これもフィット感を高めているディテールのひとつ



インナーの素材にもこだわる。滑りやすい気持ちのいい履き心地を約束



価格：4万5150円
サイズ：25.0～28.0cm（0.5cm刻み）

ホールド性の 高さは抜群!



さまざまなバイクで試したが、社外ステップもノーマルステップも相性が良かった。外足でホールドしやすいからフォームも決まりやすく、腰で乗る感覚を得やすい。しっかりと後輪に荷重でき、攻める走りに対応する

New Item Impression GAERNE GP-1

レーシングブーツに限らず新品の靴は“ナラシ”が必要だが、GP-1にそれは当てはまらない。相性もあるが、僕は新品のままサーキットを走り出したけれど、どこにも違和感がなかった

取材協力/ジャパックス TEL03-3773-7633
http://www.japex.net/
PHOTO/K.MASUKAWA,THIROSE
TEXT/T.OGAWA

見た目はハードだが
操作感はソフト!
ライダーの意思が
確実にバイクに伝わる

10年以上、ガエルネを履いているけれど新型を履くたびにその進化と、少しもブレれないガエルネらしさに驚く。「履きやすい」これこそが最大の魅力だ。不要なストレスを感じないから走りに集中できる。イタリア製だが、型は日本人専用という他のブランドにない気の使い方がこの安心を生む。「ガエルネにしてはゴツいな」これがGP-1の第一印象だったが、迫力のカーボンコンポジットフレームはフローティングマウントされ、操作性は極めて柔軟。シフトもブレーキ操作も、ツーリングブーツと変わらないほどスムーズ。さらに外足のホールド性が高く、いろいろなバ

イクに乗って見たが、どれも下半身でしっかりとバイクを操ることができた。ステップとソールのグリップも高く安心だった。転倒時に足首が横や後ろ方向に振れないようしっかりと動きを規制しているのに、歩きやすいのも見逃せない。どこか一点でホールドしている感じではなく、ブーツ全体がヒザから下を優しくホールドしてくれている。どこにもストレスがかかっていないのである。ライディングブーツの究極であるレーシングブーツ。しかし、GP-1を攻めるためのブーツと決めるのはもったいない。運動性とプロテクションを両立させた、まさにフラッグシップと呼ぶにふさわしい万能選手なのである。